

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	基幹管路更新事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	1 お客様に信頼される水道
施策目標	3 危機に強い水道の構築
施策	3 基幹管路(導水管、送水管及び配水管)の耐震化
関連根拠法令等	水道法、地方公営企業法

## 【事業概要】

現状と課題	基幹管路(導水管・送水管・配水本管)の老朽化率は平成29年度末で38.9%で管路全体の11.6%に比べて高く、耐震化率は22.5%で管路全体の26.3%に比べて下回っている状況である。また、総延長は92kmで管路総延長1108kmの約8%であるが、基幹管路は破裂、漏水事故等による市民生活への影響が大きいため、更新事業の優先度が高い。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	大規模地震等の災害に対しても安定して供給できるよう、布設替に合わせて耐震化を行う。
対象 ※誰、何に対して	非耐震基幹管路
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	老朽管更新計画に基づき、基幹管路を優先して布設替を実施する。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)
事業費合計		70,212 千円
財源内訳	国庫支出金	0 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	0 千円
	その他特財	12,706 千円
	一般財源	57,506 千円

## 【会計】

会 計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	配水施設費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	70,212 千円	0 千円	0 千円

## 【総合結果】

総合評価	■拡充 □維持 □縮小 □改善 □統合 □廃止 □休止 □完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	基幹管路は大口径管の比率が高く、同じ路線での布設替が困難な路線も多いため、工事に先立ち、新たな布設ルートを選定などを含めた布設替工事計画の策定を行う。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
基幹管路総延長(延べ)	m	92,428	92,314	92,314

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
基幹管路更新(耐震化)延長	m	90	0	0
耐震基幹管路延長	m	20,836	20,746	20,746
活動指標 分析結果	平成29年度は、道路事業に合わせてφ400配水本管の布設替を行った。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
基幹管路耐震化率	%	22.54	22.47	22.47		
成果指標 分析結果	更新事業の更なる推進が必要である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	広報PR事業(上下水道事業)	部 局 名	上下水道局
		課 名	経営管理課

## 【基本情報】

基本理念	1 お客様に信頼される水道(水道) 2 安全・安心な暮らしの実現(下水道)
施策目標	5 お客様サービスの向上(水道) 7 親しまれる下水道事業を目指します(下水道)
施策	1 広報・広聴活動の充実(水道) 3 お客様との情報交換(下水道)
関連根拠法令等	

## 【事業概要】

現状と課題	多様化する住民のニーズ・行政課題に対応するため、情報の発信や提供を行い、市民と行政の情報共有を図る必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	上下水道局専用のホームページや広報かがわ等を活用して上下水道利用者(お客さま)に対して経営状況や水質検査結果などの多様な情報を発信し、上下水道に関する理解を深めていただくことによって上下水道利用者(お客さま)との良好な信頼関係を構築する。
対象 ※誰、何に対して	上下水道利用者(お客さま)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	・ホームページを通じ、経営情報、入札・契約情報、水質検査結果、各種手続き、料金に関する事など、上下水道利用者(お客さま)や事業者に対して必要な情報を発信する。 ・施設見学を実施し、浄水処理・下水処理の過程、施設の現況に関して、上下水道利用者(お客さま)の理解の促進を図る。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)
事業費合計		1,111 千円
財源内訳	国庫支出金	0 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	0 千円
	その他特財	0 千円
	一般財源	1,111 千円

## 【会計】

会 計	水道事業会計(下水道事業会計)
款	事業費用 (事業費用)
項	営業費用 (営業費用)
目	総係費 (総係費)

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	1,111 千円	1,011 千円	1,639 千円

## 【総合結果】

総合評価	■拡充 □維持 □縮小 □改善 □統合 □廃止 □休止 □完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	市民が市の施策や情報を得るためにホームページはなくてはならないツールとして認知されており、継続的な運営が必要である。 また、広報やホームページ以外にも情報発信のツールを検討するとともに、わかりやすい情報発信や情報内容の充実に努める。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
給水人口(水道)	人	256,675	258,181	258,634
水洗化人口(下水道)	人	231,410	231,541	231,335

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
施設見学者数(水道)	人	2,400	2,033	2,465
施設見学者数(下水道)	人	73	65	49
ホームページアクセス数(水道)	回	30,429	28,242	26,007
ホームページアクセス数(下水道)	回	17,076	14,947	10,909
活動指標分析結果	水道施設見学者数は、小学校4年生の校外学習など毎年2,000人以上の見学者に、浄水のしくみについて理解を深めていただいている。また、加古川下流浄化センターの施設見学では、施設見学者に下水のしくみについて理解を深めていただいている。 ホームページのアクセス数は、昨年度より増加し、水道ページは1月平均2,500回以上のアクセス数、下水道ページは1月平均1,400回以上のアクセス数がある。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
ホームページ新規ユーザー数(水道)	件	26,953	23,067	20,644	平成30年度	28,000
ホームページ新規ユーザー数(下水道)	件	15,637	12,891	8,811	平成30年度	18,000
成果指標分析結果	ホームページの新規ユーザーは、水道は毎年20,000件以上、下水道は前年度比約3,000～4,000件程度、毎年増加しており、上下水道局のホームページが当市の施策や情報を得るためのツールとして、市民に認知されてきたと考えられる。下水道ホームページについては、新規ユーザー数が水道に比べ少ないことから、各種イベントや発行物などで今以上にホームページを宣伝するなど、市民の方に見ていただく工夫が必要である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	水質検査機器更新事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	1 安全で良質な水道水の供給
施策	1 水質管理体制の強化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	水道法には、定期的水質検査及び臨時の水質検査を実施することや、その検査の計画は、毎事業年度開始前に水質検査計画として策定し水道利用者に公表すること等が定められている。加古川市では中西条浄水場・水源地、各系統ごとの給水栓、原水において水質基準項目51項目ほかについて定期的水質検査等を実施しているが、正確かつ信頼性のある検査を行うためには、法定耐用年数を基本に計画的に更新する必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質基準項目(51項目)及びクリプトスポリジウム・ジアルジアの検査項目を自己分析できる検査体制の構築を図る。</li> <li>水質検査における分析作業を迅速に対応できる状態にする。</li> <li>浄水場や他の水源地の水質検査情報を、長期的な視点で把握し、水道水の安定供給に役立たせる。</li> </ul>
対象 ※誰、何に対して	水質検査機器
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質検査に必要な水質検査機器と業務量を把握する。</li> <li>水質検査機器を用いた検査結果の信頼性を確保するため、法令耐用年数を基本に計画的に更新する。</li> <li>効率的な水質検査が行えるよう、検査機器の更新時には適切な機器を選定して更新をする。</li> </ul>

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		18,684	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	18,684	千円

## 【会計】

会 計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	営業設備費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	18,684 千円	0 千円	0 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	水質基準項目とクリプトスポリジウム等の分析(検査項目数53項目)を自己分析する。また、水質事故等の緊急時の危機対応を迅速に行うため、水質検査機器の維持管理及び更新・購入をすすめ、分析体制の維持を進める。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
水質検査に必要な水質検査機器保有台数	台	18	18	18

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
水質検査機器の更新台数	台	1	0	0
活動指標分析結果	平成29年度は金像類を分析する誘導結合プラズマ質量分析装置の更新を実施し、分析機器の維持管理が行え、水質検査の精度も確保できた。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
検査機器導入により検査が可能となった項目数	項目	49	49	49	平成34年度	53
成果指標分析結果	機器の更新により、検査精度が向上し、検査の信頼性が向上した。また、検査結果をより早く、正確な水質情報提供と浄水処理対応に反映させることができている。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	中西条浄水場更新事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	2 いつでも安定して供給できる水道、3 危機に強い水道の構築
施策	2-1 浄水場、3-2 施設の耐震化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	中西条浄水場は、建設後40年を経過しており、施設の老朽化が著しく、さらに耐震基準を満たしていない施設が多数存在している。現在、それぞれの施設の耐震化及び設備の更新を順次進めており、今後も引き続き更新を進める必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	施設の耐震化を行うことにより危機に強い水道の構築を目指し、さらに老朽化した電気及び機械設備をエネルギー効率に優れた設備に更新することで、省エネルギー対策を推進するものである。
対象 ※誰、何に対して	中西条浄水場
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	中西条浄水場整備基本計画(その2)に基づき、順次整備していくものである。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		1,151,818	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	190,300	千円
	その他特財	853,774	千円
	一般財源	107,744	千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	原浄水施設費・受託工事費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	1,151,818 千円	1,841,889 千円	597,559 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	平成26年度に浄水処理施設(1系)耐震補強工事が、平成28年度に浄水処理施設(2系)耐震補強工事がそれぞれ完成し、さらに県施設である浄水処理施設(3系)耐震補強工事を現在施工中である。また、県市共同施設である中西条浄水場表流水系取水施設についても平成29年度に完成した。引き続き耐震化等更新事業を最優先に実施し、災害などの危機に強い水道を構築する。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
更新対象施設	施設	11	11	11

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
更新工事・設計等業務数	件	8	13	9
更新完了施設数(累計)	施設	5	4	3
活動指標 分析結果	平成29年度は、中西条浄水場浄水処理施設(3系)耐震補強等更新工事が施工中である。また平成29・30年度で旧中央管理棟耐震化工事を発注・契約した。今後、整備完了施設数は増加する見込みである。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
事業進捗率	%	45.5	36.4	27.3	平成38年度	100
成果指標 分析結果	平成29年度は中西条浄水場浄水処理施設(3系)耐震補強等更新工事を施工中である。また旧中央管理棟耐震補強等の施工を開始し、表流水系取水施設の残り2施設が完成した。平成30年度より洗浄排水池電気棟整備工事の発注等により、さらに今後進捗率は上がる予定である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	中西条浄水場整備事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	2 いつでも安定して供給できる水道、3 危機に強い水道の構築
施策	2-1浄水場、3-2施設の耐震化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	中西条浄水場は、建設後40年を経過した老朽化した施設であるため、現在、施設整備を順次進めており、今後も引き続き運転機能の強化やセキュリティを向上させる必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	セキュリティを向上させ、環境負荷の低減した施設整備を行うことにより、いつまでも安定して供給できる水道を目指すものである。
対象 ※誰、何に対して	中西条浄水場
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	中西条浄水場整備基本計画(その2)に基づき、順次整備していくものである。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)
事業費合計		10,872 千円
財源内訳	国庫支出金	0 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	5,900 千円
	その他特財	0 千円
	一般財源	4,972 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	原浄水施設費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	10,872 千円	0 千円	0 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	中西条浄水場更新事業、水質改善事業と併行して順次整備を進めていくものである。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
更新対象施設	施設	13	13	13

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
更新工事・設計等業務数	件	1	0	0
更新完了施設数(累計)	施設	8	8	8
活動指標分析結果	平成29年度は洗浄排水池について電気棟の実施設設計を行った。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
事業進捗率	%	61.5	61.5	61.5	平成38年度	100
成果指標分析結果	洗浄排水池整備工事を平成30・31年度に施工予定であり、今後整備完了施設数は増加していく。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	水源地、配水池整備事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	2 いつでも安定して供給できる水道、3 危機に強い水道の構築
施策	2-2 水源地、2-3 配水池、2-4 加圧ポンプ場、3-2 施設の耐震化
関連根拠法令等	水道法

## 【事業概要】

現状と課題	各水源地、配水池は、施設の老朽化がみられ耐震基準を満たしていない施設も存在する。現在、それぞれの施設について順次耐震化及び更新を進めている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	老朽化施設や耐震性能の劣る施設を整備更新すること、さらに低区配水区地域の3階直圧給水に対応した水圧を確保することにより、より安全で安定した水道水の供給を図ることができる。
対象 ※誰、何に対して	中西条浄水場を除く水源地、配水池、加圧ポンプ場等
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	水道施設基本計画に基づき優先度の高い施設から順次整備更新を進める。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)
事業費合計		7,290 千円
財源内訳	国庫支出金	0 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	0 千円
	その他特財	0 千円
	一般財源	7,290 千円

## 【会計】

会計	水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	配水施設費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	7,290 千円	1,977,705 千円	1,171,133 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	中西条浄水場以外の施設の整備更新については、城山配水池の更新工事・東神吉水源地の耐震補強工事・低区配水増圧施設(新在家加圧ポンプ場)の建設工事が平成28年度に完了した。今後も水道施設基本計画(平成22年度策定)に基づき優先度の高い施設から順次整備更新を進め、安全で安定した水道水の供給を図りたい。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
水源地・配水池などの施設	施設	20	20	20

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
整備更新を実施した工事・設計等業務数	件	4	16	14
整備更新を完了した施設数(累計)	施設	5	5	2
活 動 指 標 分 析 結 果	平成29年度は、既に完了している城山配水池更新、東神吉水源地耐震化、低区配水増圧施設(新在家加圧ポンプ場)新設、西部水源地整備と併せて5施設となり、今後も整備を進めていくため、完了施設数は増加する見込みである。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
事業進捗率	%	25.0	25.0	10.0	平成39年度	100
成 果 指 標 分 析 結 果	平成28年度に城山配水池の更新工事・東神吉水源地の耐震補強工事・低区配水増圧施設(新在家加圧ポンプ場)の建設工事の完了により事業進捗率は伸びている。さらに平成30年度以降は投松ポンプ場更新事業、都台ポンプ場更新事業等の実施を予定している。このため進捗率は今後上昇すると予想される。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	配水管整備事業	部局名	上下水道局
		課名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	2 いつでも安定して供給できる水道
施策	5 導・送・配水管
関連根拠法令等	水道法、地方公営企業法

## 【事業概要】

現状と課題	給水区域内における配水管の拡張整備は、給水が確保できるところまで整備された。今後は、道路事業や区画整理事業等の公共事業にあわせて配水管の整備を行う。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	給水区域内において、いつでも安定して供給できる水道管路を構築する。
対象 ※誰、何に対して	給水区域内における配水管の未整備箇所
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	管路更新計画と整合させながら計画的な配水管布設工事を行い整備を図る。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		27,284	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	18,600	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	8,684	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
款		資本的支出
項		建設改良費
目		配水施設費

## 【コスト推移】

		平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計		27,284 千円	43,992 千円	21,295 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	道路事業等の計画に合わせて整備事業を実施できた。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
配水管整備延長(予定)	m	1,190	810	915

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
配水管整備延長(実績)	m	597	802	234
活動指標分析結果	整備延長は道路事業等に合わせて施工するため予定より減少している。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
目標達成率	%	50.2	99.0	25.6		
成果指標分析結果	施工を予定していた区間は道路事業等に合わせて毎年整備できている。 配水管整備残延長は約4.5kmで、平成36年を目標に道路事業に合わせて実施していく。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	老朽管更新事業(水管橋更新事業含む)	部 局 名	上下水道局
		課 名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	2 いつでも安定して供給できる水道
施策	5 導・送・配水管
関連根拠法令等	水道法、地方公営企業法

## 【事業概要】

現状と課題	耐震性の低い石綿セメント管や高級铸铁管(印ろう継手、無ライニング管)の管路延長は全体の0.24%であり、これらの更新は概ね完了している。全管路における耐震化率は平成29年度末で26.3%であるが、水需要急増期に整備した非耐震性継手(ビニール管、ダクタイル鉄管)で法定耐用年数40年を超える管路延長が今後も増加傾向にある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	老朽管や非耐震性継手管を整備更新することで自然災害等による被害を最小限にとどめ、被災した場合でも迅速に復旧できる耐震性に優れた水道管路の構築。
対象 ※誰、何に対して	非耐震性継手管(ビニール管、ダクタイル鉄管、石綿セメント管、高級铸铁管)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	管路更新計画に基づき、耐震化されていない管路、法定耐用年数(布設後40年以上)の経過した管路、または災害時に重要な給水地点となる管路を優先して年間更新延長約5,000mの布設替工事を計画的に実施する。石綿セメント管、高級铸铁管は、下水道または道路工事等の計画区域に埋設されており、それらの事業工事に合せて更新する。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		229,098	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他特財	12,706	千円
	一般財源	216,392	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
会 計	款	資本的支出
	項	建設改良費
	目	配水施設費

## 【コスト推移】

		平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計		229,098 千円	726,677 千円	101,469 千円

## 【総合結果】

総合評価	■拡充 □維持 □縮小 □改善 □統合 □廃止 □休止 □完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	平成29年度末の耐震化率は26.3%であるが、基幹管路については耐震化が遅れている。今後は特に市民生活に影響が大きい基幹管路を中心に、更新(耐震化)事業のさらなる推進が必要である。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
基幹管路総延長	m	92,428	92,314	92,314
その他の管路総延長	m	1,015,494	1,010,919	1,005,197
管路全体総延長	m	1,107,922	1,103,233	1,097,511

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
基幹管路耐震管延長(更新延長)	m	20,836(90)	20,746(0)	20,746(0)
その他の管路耐震管延長(更新延長)	m	270,568(253)	265,060(6,735)	252,121(1,639)
管路全体耐震管延長(更新延長)	m	291,404(343)	285,806(6,735)	272,867(1,639)

活動指標分析結果	老朽管更新(耐震化)の実績延長は0.3km(水管橋更新1橋含む)であり、計画どおり(5.0km/年)実施できなかった。			
----------	---	--	--	--

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
基幹管路耐震化率	%	22.54	22.47	22.47		
配水支管耐震化率	%	26.64	26.22	25.08		
管路全体耐震化率	%	26.30	25.91	24.86	平成30年度	31.0
成果指標分析結果	平成30年度の目標達成は困難な状況であるが、今後は老朽管更新計画に基づき、市民生活への影響が大きい基幹管路を主に更新(耐震化)事業に取り組んでいく。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	漏水防止対策事業	部局名	上下水道局
		課名	配水課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	2 いつでも安定して供給できる水道
施策	5 導・送・配水管
関連根拠法令等	水道法・地方公営企業法

## 【事業概要】

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効率の向上を目標に昭和57年度から年次計画により実施中。</li> <li>・第11次漏水防止対策事業の目標値は有収率96.7%とする。</li> <li>・漏水は復元するものであり、有収率を維持するために今後は費用対効果、年次調査区域割の頻度、細分化、調査手法の検討を要する。</li> </ul>
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	平成30年度から第11次漏水防止計画に基づき、目標有収率を達成する。
対象 ※誰、何に対して	給水区域全域
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漏水防止対策指針の「基礎的対策、対症療法的対策、予防的対策」を一体的に推進する。</li> <li>・漏水調査(工法は、リークゾーンテスト、監視型漏水調査、個別音聴調査)</li> <li>・老朽管の布設替(漏水多発管路等)</li> <li>・配水管の適正水圧</li> </ul>

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		19,980	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	19,980	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
会	計	事業費用
款		営業費用
項		配水費
目		

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	19,980 千円	21,600 千円	18,900 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<p>有収率は横ばいで推移しているものの、毎年計画どおりに調査を行い、成果を上げている。平成30年度以降は平成29年度に策定した第11次漏水防止計画に基づき、継続的な取り組みにより効率的な調査方法を検討しながら、目標有収率の達成を目指す。</p>

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
調査対象管路	km	530	540	540

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
リークゾーンテスト	基	2,546	2,553	2,553
活動指標 分析結果	計画通り調査を進めることができ、26箇所の漏水を発見できた。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
有収率	%	95.8	96.7	95.6	平成29年度	95.3
成果指標 分析結果	目標有収率上回る結果となった。昨年よりは有収率が下回ったが漏水の早期発見、早期修繕することで水資源の流出を防ぎ、有収率の向上に貢献できた					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	水道料金収納事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	経営管理課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	4 水道事業の経営基盤の強化
施策	2 民間委託の推進
関連根拠法令等	水道法、民法、加古川市水道事業給水条例、地方公営企業法

## 【事業概要】

現状と課題	機器の普及や環境意識の高まりに伴う節水意識の定着、企業のコスト縮減努力などによって料金収入は伸び悩み傾向にある。水道事業の財源の根幹となる料金収入の安定的確保と負担の公平性の観点から、納期内納付の促進と滞納整理の強化を図る必要がある。また、お客さまサービスの向上と事業経営の効率化を図るために、平成17年4月より水道お客さまセンターを民間事業者者に全面委託し運営している。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	経営の根幹をなす水道料金の収納を、納期限内に着実に実施することにより、安定した経営を図る。未納料金については、債権管理を強化し、お客さま間の公平性を確保する。 窓口の一元化や、支払い方法の多様化を図ることで、お客さまの利便性を向上させる。
対象 ※誰、何に対して	水道の利用者
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	水道料金の収納については、口座振替、コンビニ収納、クレジット支払いや金融機関の窓口等で納付できるよう、納付し易い環境整備を行っている。納期限内に納付されない者に対しては、文書、電話、外勤徴収等による収納業務を行うとともに、2期以上の滞納者については、給水停止等の実効的な方法も取り入れ収納率の向上を図っている。 窓口や料金等の業務においては、窓口を一元化した水道お客さまセンターを開設し、運営を民間事業者者に委託することにより、民間の優れたノウハウの活用と、事業の効率的な運営を図っている。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		258,242	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	258,242	千円

## 【会計】

会計		水道事業会計
会 計	款	事業費用
	項	営業費用
	目	業務費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	258,242 千円	305,219 千円	253,828 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	適正な賦課徴収に努めていくとともに、滞納整理を進めるにあたって滞納整理方針の策定及び標準化を行っていきたい。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
給水人口	人	256,675	258,181	258,634
水道料金調定額(現年度)	千円	4,404,478	4,494,534	4,489,323

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
水道料金収納済額	千円	4,006,994	4,098,986	4,083,321
活動指標 分析結果	委託内容の見直しや料金関係システムの更新等により金額が増減する。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
収納率(現年度)	%	91.0	91.2	91.0	平成29年度	91.1
収納率(過年度)	%	94.0	94.1	93.4	平成29年度	92.9
高額滞納者人数(10万円以上)	人	46	42	49	平成29年度	0
成果指標 分析結果	節水等の理由により料金収入は減少傾向であるが、滞納者への早期接触による徴収強化により、過年度収納率は目標値を達成している。 また、高額滞納者(10万円以上)の人数を急激に減らすことは難しいが、継続して分納誓約や納期内納付を確実に履行させることにより減少させていくことが重要である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業名	職員研修事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	経営管理課

## 【基本情報】

基本理念	2 安全と安定を未来へ
施策目標	4 水道事業の経営基盤の強化
施策	4 人材の育成
関連根拠法令等	

## 【事業概要】

現状と課題	水道事業を取り巻く環境は将来にわたり厳しくなっていくなかで、職員に求められる知識・能力はより多様化・専門化している。また、経験豊富なベテラン職員が退職により減少している状況もあるため、時代に応じた職員の能力開発・資質向上が必要となっている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	外部機関(公益社団法人日本水道協会等)が実施する研修に参加して新たな発想や高度な知識・技術を習得することにより、多様化する住民のニーズ・行政課題に対応できる能力・資質を備えた職員を育成する。
対象 ※誰、何に対して	上下水道局職員
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	経験年数等により必要とされる能力に応じた研修を受講して知識・専門技術等を身に付けることができるよう、外部機関(公益社団法人日本水道協会等)が実施する研修に計画的に職員を派遣する。

## 【コスト】

		平成29年度(決算)	
事業費合計		2,295 千円	
財源内訳	国庫支出金	0 千円	
	県支出金	0 千円	
	地方債	0 千円	
	その他特財	0 千円	
	一般財源	2,295 千円	

## 【会計】

会計		水道事業会計
会 款		事業費用
項		営業費用
目		総係費

## 【コスト推移】

	平成29年度(決算)	平成28年度(決算)	平成27年度(決算)
事業費合計	2,295 千円	1,758 千円	2,434 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	経験豊富な職員が退職により減少している中、多様化する住民のニーズ・行政課題に対応するためには、研修事業を継続的に行う必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
水道会計職員数(※再任用職員を除く)	人	51	47	49
再任用職員数	人	5	6	7

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度
派遣研修修了者数(延べ)	人	84	89	87
活動指標 分析結果	派遣研修修了者数は、90人前後を推移している。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成29年度	平成28年度	平成27年度	目標年度	目標値
外部研修時間(※)	時間	12.5	11.8	14.0	平成30年度	14
成果指標 分析結果	職員1人あたりの研修時間を平均的に表している。 組織として効果的な派遣研修を行うため、担当課ごとの予算を集約し、経験年数に応じた技術や知識の習得を計画的に推進していく取組ができた。 (※)外部研修時間・・・(研修時間×研修受講人数(再任用職員除く)／全職員数(再任用職員除く))					